

桂島の避難所に医療を待つ患者の輪

塩釜市浦戸諸島 桂島



診察する斎藤医師



症状を聞く田中医師



鏡で切ったキズの処置の様子



問診の様子、血圧・体温・血中酸素濃度も測定



患者さんの相談に気軽に応じる看護師



診察を待つ間、会場はさながら臨時診療所の様相

3月27日、群馬民医連医師斎藤耕一郎、看護師三森亜紀・大竹絵美、薬剤師野口陽一、事務根岸敦史・青柳達矢、埼玉民医連医師田中宏昌、看護師野口美幸、薬剤師若林純平、事務中島健二さんは、塩釜市浦戸諸島桂島の避難所になっている旧浦戸第2小学校を訪れました。

浦戸諸島も津波の被害が大きく、災害復興臨時便の運航は前日開始されたばかり、民間の医療支援は今回が初めてです。

最初の患者さんは、震災後停電で暗い中、ストーブにおいていたやかんで左大腿部熱傷をした女性（69）、女性の医療スタッフを待っていました。72歳の男性も停電のなかで三面鏡が倒れてきて右足を切ってしまいました。お医者さんの治療をうけて「震災後ずっと自分で処置していたので、安心しました。」と話していました。（写真左）

斎藤耕一郎医師は「血圧や高脂血症、不整脈など、いつも飲んでいる薬が足りなく不安を感じている人が大勢います。自分で動けない高齢の方は、誰かに送ってもらわなければならないので、定期的な支援が必要」と話していました。

坂病院のスタッフが来たと聞いて、避難所は臨時診療所ようになり、坂病院にかかっている患者さんの輪ができていました。この日は14人が受診し、12人が医師の診察を受けました。次の訪問が待たれていました。